2025年3月16日　四旬節第2主日　「平和の町に行こう」北川逸英

　先週、私たちはイエスさまが荒れ野で、悪魔から誘惑を受けて、これを退けられた話を聞きました。それはイエスさまがヨハネから洗礼を受けられて、天から聖霊が降ったすぐ後の事でした。

　今週、私たちはイエスさまが街中、ファリサイ派の人たちから、脅迫を受ける現場に立ち会います。彼らは律法を固く信じるユダヤ人の中でも、分離派と呼ばれる人たちです。

　彼らは人を「律法を正しく守る」自分たちと、「律法を正しく守る」事の出来ないそれ以外の人たち、に二つに分けて考えます。全ては「律法を正しく守る」かどうか。だから律法を守らない人間は切り捨てる。このように世界を単純化し、自分が「要らない」と判断した部分を切り捨てる行いを、合理化といいます。

　「ここはあなたのいるべき場所ではありません。ここから今すぐに出て行きなさい。」

　ファリサイ派の人たちはイエスさまにそう言いました。その言葉は丁寧でまるで「私たちはあなたの事を思って申し上げています。」と言わんばかりです。けれどこれは「お前は死んでもいいのか。出て行け」という脅しの言葉です。

　それに対してイエスさまは全く恐れず「行って、あの狐に伝えなさい」として言われます。

『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』

先週四旬節のはじまりに 40 という数字が、モーセの荒れ野での 40 年間や、ヨナの魚に呑まれて 40 日、イエスさまの荒れ野で彷徨う 40 日と合わせて、苦難に耐える数字であるとお話をしました。

今日の三日目、3 という数字は、聖書でも大切な聖なる数です。金曜日に十字架に上られて死なれた主は、三日後に復活されます。イエスさまはここでファリサイ派の人々に、ご自分の十字架上での御受難と、三日後の復活を預言されます。

「だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。」

これは四旬節の間、聖金曜日まで続く、イエスさまの十字架への道行きを言い表しておられます。これから続く御言葉は、私たちに向けられて、イエスさまが語られる、悔い改めの招きです。

「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。」

イエスさまはファリサイ派の人たちだけに向けて、この御言葉を語られたのではありません。イエスさまの呼び声に答える事無く、主の御翼の下に集まらず、自分たちの正しさを主張して、殺し合う私たちに向かって、イエスさまは悔い改

めを求めておられます。

　いま私たちの教会も、危機的な状況に陥っています。先日西東京教会がその働きを終えて、感謝の祈りをもって会堂を閉じました。私たちが自分の正しさにより頼んで、他との分離を求めた時には、神さまの姿を見失う事となります。扉を閉ざしてはなりません。

　教会に来られる方たちは、皆さますべて聖霊によって招かれて、主の名によって、神さまからの祝福を携えて、共に集められている聖なる人たちです。ですから互いを尊重し自らの罪を悔い改め、主を信頼して、一つになって祈りましょう。

　四旬節の今、これから大きな変化が、私たちを襲います。けれど主を信頼して、私たちは身を慎んで、静かに祈りながら、この時を過ごします。ともに主の復活を信じて、感謝の中に過ごしましょう。私たちの真の居場所、平和の町を求めて、イエスさまと一緒に、みんなで共に進んで参りましょう。

　4 月から日本ルーテル教団関東地区の諸教会は、新しく責任教職者の態勢を組み立て直して、礼拝を守っていく事となります。北川はこの後に、どのような形で、どの教会に巡回を命じられるのか、現状ではまったく分かりません。

　それぞれの教会の役員会と、責任教職の牧師が決定されて、関東地区に申し出があった教会へ、日々送り出されて参ります。今日も明日も御言葉を語り続け、教会員の方々の言葉に耳を傾けて、自分の道を進んで参ります。

しかしいずれの場所におきましても、教会はイエス・キリストの体であって、教会の頭はイエスさまです。そこに私の教会も、あなたの教会もなくて、等しく教会は主にあって一つです。また私たちは御言葉によって一つです。

心からお願いします。どうぞ一つの群れとして、互いの教会の間にある壁を、心の内から取り除くようにお祈り下さい。様々な知恵を寄せ合い教会を守って、小さな教会も、安心して礼拝が続けられますよう、主よ私たちをお守り下さい。NRK 関東地区にある諸教会が協力して一つとなり、平和の町として私たちをお守り下さい。主の名によって来られる方に、祝福があるように。アーメン